

**平成 24 年度 全国学力・学習状況調査  
～石狩市における結果の概要～**

**石狩市教育委員会**

## 目 次

石狩市の学力の現状と課題の克服を目指して	1 P
全国学力・学習状況調査の概要	2 P
平成 24 年度 全国学力学習状況調査の結果分析	
小学校国語	3 P
小学校算数	6 P
小学校理科	9 P
中学校国語	12 P
中学校数学	15 P
中学校理科	18 P
設問別調査結果	
児童・生徒質問紙より	21 P
学校質問紙より	33 P

# 石狩市の学力の現状と課題の克服を目指して

石狩市教育委員会

本市の子ども達の学力は、依然として全国平均を下回っており、厳しい状況にあります。

平均正答率で見ますと、昨年より小学校では、国語A・Bで後退し、中学校では国語Bで大きな改善が見られましたが、小学校・中学校いずれの教科においても、全国を上回る教科はなく、なかでも全国との差が最も大きい教科は、小学校国語Bで、-8.1ポイントとなっております。

一方、学校ごとに見ますと、各教科において、全国平均を上回る学校も複数校あります。

正答数の状況で見ますと、全国の下位25%と同じ正答数の範囲に属する児童・生徒の割合は、小学校で3.9ポイント~14.2ポイント、中学校で3.3ポイント~9.7ポイントと、全教科で全国よりも多い状況にあります。

全国学力・学習状況調査の正答率が低いということは、「習得することが望ましいと国が判断した個別の学習内容」が、身につけていない状態にあることを示しております。

このような中、繰り返し出題される問題は、全国的な課題となっているものであり、身につけるべきと判断された内容として、指導にも一層の留意が求められておりますが、過去の調査問題との比較で見ますと、国語では、小学校10問、中学校7問の類似問題において、中学校で3問が全国を上回りました。また、小学校では10問中2問、中学校では7問中2問で全国との差が縮小しております。

算数・数学では、小学校12問、中学校20問の類似問題において、中学校で20問中1問が全国を上回りました。また、小学校では12問中7問、中学校では20問中8問で全国との差が縮小しております。

一方、差が縮まっていない、あるいは拡大している問題への取り組みが課題となっております。

本調査は、「学力」だけではなく、家庭での生活習慣や学習習慣を含めた「学習の状況」も調査分析の対象としています。

児童・生徒質問紙からは、1日あたり30分以上読書をしている小学生は36.6%、中学生は32.2%であり、全国と比較して小学校で1.8ポイント、中学校で4.1ポイント高く、良い傾向にあります。

一方、普段（月～金）4時間以上テレビやビデオ・DVDを見たり、テレビゲームをしたりする小中学生の割合が依然として全国より高く、家庭学習とのバランスにおいて大きな課題となっております。

また、自分には、良いところがあると思っている小学生は76.7%、中学生は60.5%であり、全国と比較して小学生で0.1ポイント、中学生で7.7ポイント低いことから、自信を持たせていく指導が必要であると考えております。

学校質問紙からは、放課後や長期休業中を活用した補充的学習における積極的な取り組みや、授業改善・指導形態の工夫など、努力されている傾向はうかがえますが、取り組み全体の成果と課題を総合的に把握し、対策を明確にしていくことが大切であると考えております。

子ども達の学力向上のためには、市民の皆様と危機感を共有し、学校・家庭・地域が一体となって、連携協働して改善に取り組むことが不可欠でありますので、今後とも市民の皆様のご理解・ご協力をお願い申し上げます。

## 全国学力・学習状況調査の概要

この調査結果は、国及び北海道が公表した「平成24年度全国学力・学習状況調査～調査結果のポイント」で示された調査結果に基づき、本市の小中学校の状況についての概要を掲載したものです。

### 1. 調査の目的

- (1)義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2)上記の取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3)学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

### 2. 調査の対象学年

小学校第6学年及び中学校第3学年

### 3. 調査の内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）
- (2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査（児童生徒及び学校に対する調査）

### 4. 調査の方式

平成19年度～21年度は全国すべての小中学校を対象として、平成22年度は、抽出（全国で約30%）及び希望利用調査として実施されました。平成23年度は「東日本大震災」の影響で全国一斉での実施は見送られ、各都道府県独自の対応となったことから、北海道では、札幌市を除く全ての市町村の希望参加により「全国学力・学習状況調査問題を活用した学力等調査」が実施されました。

本年度は、平成22年度同様、抽出調査（全国約30%）及び希望利用調査での実施となりました。以下において、「全国」と記載したデータは抽出調査結果であり、「全道」「石狩市」と記載したデータについては、抽出結果と希望利用（札幌市以外の全市町村）調査結果を合算したデータです。尚、本年度は「全道」のデータに、札幌市の抽出調査結果が含まれています。

※問題の詳細については、「国立教育政策研究所」のホームページを参照してください。  
「国立教育政策研究所」（<http://www.nier.go.jp/12chousakekkahoukoku/index.htm>）

### 5. 調査実施日

平成24年 4月17日（火）

### 6. 調査実施学校数及び児童生徒数

小学校 13校（市内全校） 582名      中学校 8校（市内全校） 556名

## 平成24年度 全国学力学習状況調査の結果分析

### 【小学校国語】

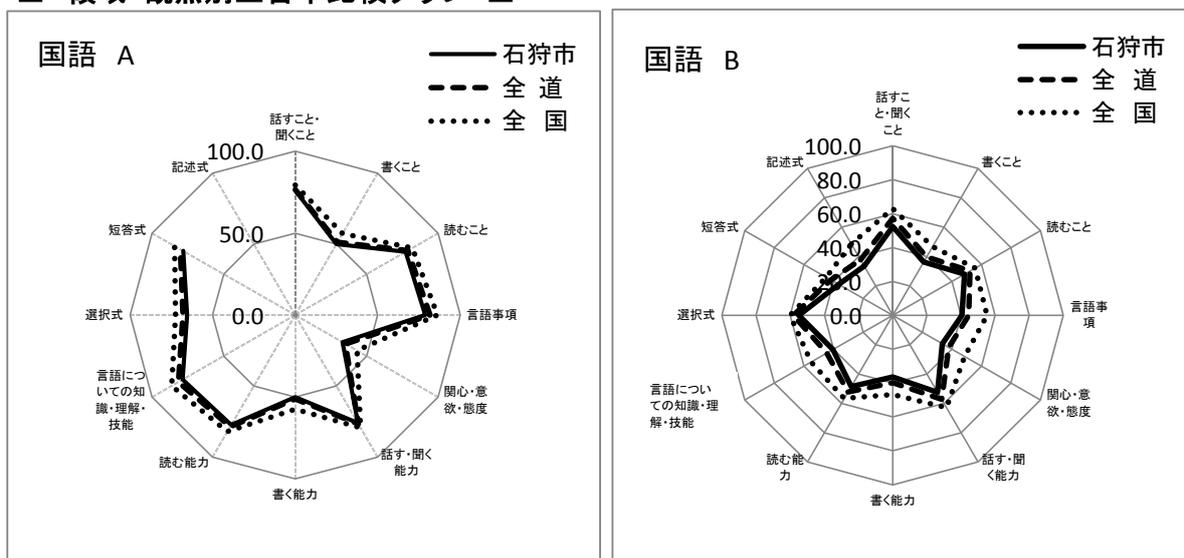
#### □ 正答率の状況 □

	国語A(主として「知識」に関する問題)		国語B(主として「活用」に関する問題)	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
全国(公立)抽出	13.9問/17問	81.6%	6.1問/11問	55.6%
全道(公立)	13.2問/17問	77.8%	5.6問/11問	51.1%

全道との比較	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様(上位)	同様	ほぼ同様(下位)	やや低い	低い	相当低い	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様(上位)	同様	ほぼ同様(下位)	やや低い	低い	相当低い	
	石狩市 : ○ 全国 : ☆			☆			○						☆						○

相当高い	… 7ポイント以上の範囲	ほぼ同様(下位)	… -1ポイント以下-3ポイント未満の範囲内
高い	… 5ポイント以上7ポイント未満の範囲内	やや低い	… -3ポイント以下-5ポイント未満の範囲内
やや高い	… 3ポイント以上5ポイント未満の範囲内	低い	… -5ポイント以下-7ポイント未満の範囲内
ほぼ同様(上位)	… 1ポイント以上3ポイント未満の範囲内	相当低い	… -7ポイント以下の範囲
同様	… ±1ポイント未満の範囲内		

#### □ 領域・観点別正答率比較グラフ □



#### □ 国語科の概要 □

- 目的に応じ、収集した情報を関係付けながら話し合うことについては、定着が見られません。
- 百科事典を読み、目的に応じて中心となる内容を捉えことには、定着が見られます。
- 漢字の筆順については理解の定着は見られますが、一部の漢字の書きなどの言語事項について課題が見られます。
- 学習状況調査での解答時間が「余った」「ちょうどよかった」等の肯定的な回答率は全道と同様でしたが、無解答率は全道よりもやや高い傾向にあります。

## 国語 A（主として「知識」に関する問題）

以下に示す内容で、基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかを診る問題で構成されています。

- ・話の内容を聞きながら書いた質問について、その狙いを捉える。
  - ・新聞の報道記事のリードを作るために必要な事柄を整理し、一文にまとめて書く。
  - ・百科事典を読み、目的に応じて中心となる内容を取り出して書く。
  - ・日常生活で使われている慣用句を集め、それらの意味を捉える。
- 設問数は、17問です。

- ・「話すこと・聞くこと」の領域は、全道と同様です。

(例)	国語A		設問	石狩市正答率	全道正答率
※ほぼ同様(上位)の例	3 ア	情報の関係付け	整理した図の中から適切な内容を取り出して書く	92.4%	91.0%

- ・「書くこと」の領域は、全道と比べ、ほぼ同様(下位)の傾向を示しています。

(例)	国語A		設問	石狩市正答率	全道正答率
	7	必要となる事柄を整理して簡潔に書く	新聞の報道記事のリードに必要な事項を整理し、一文にまとめて書く	33.2%	35.2%

- ・「読むこと」の領域は、全道と比べ、ほぼ同様(下位)の傾向を示しています。

(例)	国語A		設問	石狩市正答率	全道正答率
	5 ア	目的に応じて、中心となる内容を捉える	百科事典を読み、目的に応じて中心となる内容を取り出して書く	88.1%	89.1%

- ・「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域は、全道と比べ、ほぼ同様(下位)の傾向を示しています。

(例)	国語A		設問	石狩市正答率	全道正答率
※相当低い例	1 ニ	漢字を書く	(1) 病院でいしゃにみてもらう	59.4%	66.9%
			(2) 東京からたいようがのぼる	75.2%	78.7%
			(3) 白いぬのを青くそめる	74.2%	85.5%
※同様の例	8	慣用句の理解	日常生活で使われている慣用句集め、それらの意味を適切に捉える	76.2%	76.5%
※ほぼ同様(上位)の例	9 一	筆順を正しく漢字を書く	学年別漢字配当表に示されている漢字の正しい筆順を適切に捉える	80.9%	79.3%

### 〈指導の改善にあたって〉

- ・目的や意図に応じ、資料を読み取ったり、狙いを明確にしなが、適切に質問をする指導を充実させる必要があります。
- ・目的や意図に応じて、必要となる事柄を整理して簡潔に書く指導が求められます。そのために、意味内容が簡潔明瞭に伝わるよう、一文を比較的短く書く指導を強化する必要があります。
- ・漢字を正確に書く力をさらに定着させるために、児童の意欲を保ちながら、繰り返し定着状況を確認する機会を設けるなどの工夫が必要です。

## 国語 B (主として「活用」に関する問題)

基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかを診る問題で構成されています。

- ・手紙の構成に基づいて事柄を整理し、適切に敬語を使いながら依頼の手紙を書く。
  - ・収集した情報を整理したり、資料を読み取ったりしながら計画的に話し合う。
  - ・雑誌の特徴を押さえながら読み、複数の記事を結び付けたり、編集者の意図を推論したりしながら、自分の考えをまとめる。
- 問題数は11問です。

- ・「話すこと・聞くこと」の領域は、全道に比べ、やや低い傾向を示しており課題があります。

国語B		設問	石狩市正答率	全道正答率
(例)	2 一 情報の整理	参加者から出された質問の内容を適切に捉え、まとまりごとに整理する	78.6%	82.1%

- ・「書くこと」の領域は、全道に比べ、やや低い傾向を示しており課題があります。

国語B		設問	石狩市正答率	全道正答率
(例)	3 四 複数の記事を読み、事実を基にして自分の考えをもつ	二つの記事に書かれている内容を結び付けながら読み、理由となる事実を基にして自分の考えを記述する	25.0%	28.1%

- ・「読むこと」の領域は、全道に比べ、やや低い傾向を示しており課題があります。

国語B		設問	石狩市正答率	全道正答率
(例)	3 二 編集者の意図を捉える	編集者の意図を説明したものとして適切なものを選択する	46.4%	50.0%

- ・「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域は、やや低い傾向を示しており課題があります。

国語B		設問	石狩市正答率	全道正答率
(例)	1 二 敬語を使い、内容の中心を明確にして書く	目的や意図に応じ、適切に敬語を使いながら、返事の仕方と内容を記述する	40.5%	44.6%

### 〈指導の改善にあたって〉

- ・全道と比べ、「同様」から「やや低い」となり、差が拡大したことから、課題の明確化と、より対応の具体化を図るため、今後、次の点について指導に努める必要があります。
- ・目的や意図に応じ、資料を的確に読み取ったり、狙いを明確にしなが、適切に質問する指導の充実が求められています。そのために、資料を分析し考察する力を定着させる必要があります。
- ・依頼文や案内状などの実用的な文章の作成や、それに対する返事の仕方について、適切な敬語の使用が求められます。そのために、表書きや後付けなどの基本的な形式を理解させ活用させる指導の充実が必要です。
- ・目的や意図に応じ、複数の情報を結びつけたり、編集者の意図を推論しながら自分の考えをまとめる指導の強化を図る必要があります。

### 教科に関する意識 (質問紙の傾向)

- ・「国語の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答は、昨年度より向上していますが、全道の62.9%に対して石狩市は59.1%で、3.8%低い結果となっています。
- ・「国語の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的な回答は、昨年度より向上していますが、全道の92.9%に対して石狩市は91.1%で、1.8%低くなっています。
- ・「国語の授業内容はよく分かりますか」に対する肯定的な回答も、昨年度より向上していますが、全道の83.0%に対して石狩市は80.0%と3.0%低くなっています。

## 平成24年度 全国学力学習状況調査の結果分析

### 【小学校算数】

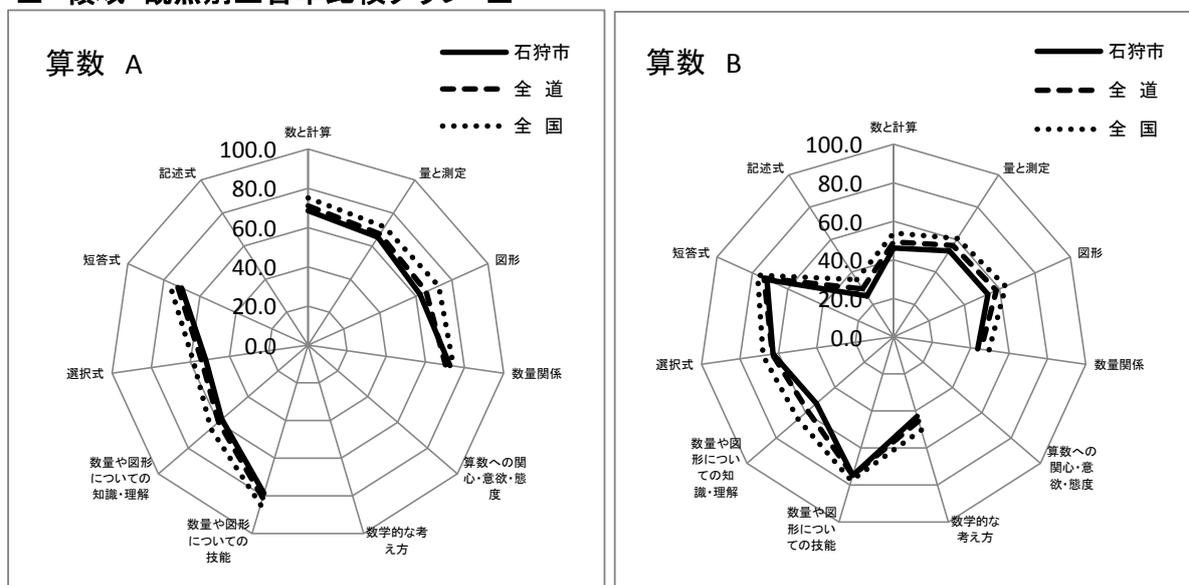
#### □ 正答率の状況 □

	算数A(主として「知識」に関する問題)		算数B(主として「活用」に関する問題)	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
全国(公立)抽出	13.9問/19問	73.3%	7.7問/13問	58.9%
全道(公立)	13.1問/19問	68.7%	7.1問/13問	54.3%

全道との比較	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様(上位)	同様	ほぼ同様(下位)	やや低い	低い	相当低い	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様(上位)	同様	ほぼ同様(下位)	やや低い	低い	相当低い
	石狩市 : ○ 全国 : ☆			☆			○						☆			○		

相当高い	… 7ポイント以上の範囲	ほぼ同様(下位)	… -1ポイント以下-3ポイント未満の範囲内
高い	… 5ポイント以上7ポイント未満の範囲内	やや低い	… -3ポイント以下-5ポイント未満の範囲内
やや高い	… 3ポイント以上5ポイント未満の範囲内	低い	… -5ポイント以下-7ポイント未満の範囲内
ほぼ同様(上位)	… 1ポイント以上3ポイント未満の範囲内	相当低い	… -7ポイント以下の範囲
同様	… ±1ポイント未満の範囲内		

#### □ 領域・観点別正答率比較グラフ □



#### □ 算数科の概要 □

- 日常の事象を数理的に捉えたり、比例の関係の理解については、定着が見られます。
- 市内各校の正答率の向上は見られるものの、全道との比較で、全道を上回るまでには至っていません。
- 小数の減法、分数の除法計算、示された情報を基に筋道を立てて考え、図形の面積の関係を判断することに課題があります。
- 解答時間が「あまった」や「ちょうどよかった」という肯定的な回答は、A問題もB問題も全道よりやや高くなっています。また、A・Bとも無解答率は、全道とほぼ同様です。

## 算数 A（主として「知識」に関する問題）

以下の内容で、基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかを診る問題で構成されています。

- ・整数、小数、分数の四則計算をする。
  - ・示された図の面積は約何 $\text{cm}^2$ になるか選ぶ。
  - ・基本的な平面図形の性質に基づいて角を求める。
  - ・比較量と割合から基準量を求める。
- 問題数は19問です。

- ・「数と計算」の領域は、全道とほぼ同様（下位）の傾向を示しております。

(例)		算数A	設 問	石狩市正答率	全道正答率
※相当低い例	1 (7)	分数の除法計算	$4/5 \div 8$ を計算する	62.5%	69.9%
※ほぼ同様（上位）の例	3 (2)	除法の理解	120cmの赤いテープの長さが白いテープの長さの0.6倍に当たるとき、白いテープの長さを求める	40.6%	39.5%

- ・「量と測定」の領域は、全道とほぼ同様（下位）の傾向を示しています。

(例)		算数A	設 問	石狩市正答率	全道正答率
	4	測定値の平均を求める	5日間で1日に平均何個のトマトがとれたことになるのかを書く	79.5%	81.7%

- ・「図形」の領域は、全道に比べて、やや低い傾向を示しており課題があります。

(例)		算数A	設 問	石狩市正答率	全道正答率
※同様の例	6 (1)	四角形の内角の和が $360^\circ$ であることの理解	三つの角の大きさが、 $60^\circ$ $80^\circ$ $90^\circ$ の四角形の残りの角の大きさを求める	71.9%	71.9%
※低い例	7	円の中心と半径についての理解	示された半円を描くために、コンパスの針を刺す場所と、コンパスの開いている長さを答える	65.4%	71.1%

- ・「数量関係」の領域は、全道とほぼ同様（上位）の傾向を示しています。

(例)		算数A	設 問	石狩市正答率	全道正答率
※相当高い例	9	比例の関係の理解	直方体の底面の大きさを変えずに、高さを2倍、3倍、…にすると、体積はどのように変わるかを選ぶ	88.8%	81.4%

### 〈指導の改善にあたって〉

- ・整数、小数、分数の四則計算の仕方が定着するよう、必要に応じて繰り返し指導し、計算技能の習熟が図られる指導に努める必要があります。
- ・身の回りの具体物の大きさの見当を付ける活動を通して、面積についての感覚を豊かにする指導の強化が必要です。
- ・図形について、算数の用語を正しく用いて辺や面を適切に表現できる指導の強化が必要です。

## 算数 B (主として「活用」に関する問題)

以下の内容で、基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかを診る問題で構成されています。

- ・複数の処理の仕方を解釈し、一方が合理的な処置である理由を記述する。
  - ・図形を観察して筋道を立てて考え、面積の関係を記述する。
  - ・示された条件を基に、重さの求め方を記述する。
  - ・表から適切な数値を取り出して割合の大小を判断し、その理由を記述する。
- 問題数は13問です。

- ・「数と計算」の領域は、全道と比べ、やや低い傾向を示しており課題があります。

算数B		設 問	石狩市正答率	全道正答率
(例) ※同様の例	1 (1)	硬貨の種類と枚数に対応する金額	91.6%	91.2%
※低い例	4 (3)	条件を基にした、重さの求め方の記述	21.7%	26.7%

- ・「量と測定」の領域は、全道と比べ、やや低い傾向を示しており課題があります。

算数B		設 問	石狩市正答率	全道正答率
(例)	2 (3)	算数用語の表現を選択	45.7%	49.5%

- ・「図形」の領域は、全道と比べ、やや低い傾向を示しており課題があります。

算数B		設 問	石狩市正答率	全道正答率
(例) ※低い例	3 (2)	面積の関係の記述	40.3%	46.3%
※同様の例	5 (1)	円の性質を用いて長さを求める	60.0%	60.5%

- ・「数量関係」の領域は、全道と比べ、ほぼ同様（下位）の傾向を示しています。

算数B		設 問	石狩市正答率	全道正答率
(例)	2 (1)	求める式を読み取る	83.3%	84.6%

### 〈指導の改善にあたって〉

- ・図形の特徴を言葉や記号を用いて観察し、図形どうしの面積の関係を確実に理解できるよう、指導を強化する必要があります。
- ・身の回りから平面図形や立体図形を見出し、その図形の定義や性質を基に考察することで、合理的に処理できることを実感させる指導の強化が必要です。
- ・基準量、比較量、割合の関係を図に表したり、□を用いた式で表したりして、数量の関係を捉える活動の充実が必要です。

### 教科に関する意識 (質問紙の傾向)

- ・「算数の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答は、全道の63.6%に対して石狩市は66.7%で3.1%高くなっています。
- ・「算数の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的な回答は、全道と同じ、92.2%を示しています。
- ・「算数の授業の内容はよくわかりますか (石狩市76.05%、全道76.2%)」「問題の解き方がわからないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか (石狩市77.5%、全道77.8%)」と肯定的な回答は全道とほぼ同じ傾向を示しましたが、「授業で学習したことは将来役に立つと思いますか (石狩市88.0%、全道89.5%)」ではやや低くなっています。

## 平成24年度 全国学力学習状況調査の結果分析

### 【小学校理科】

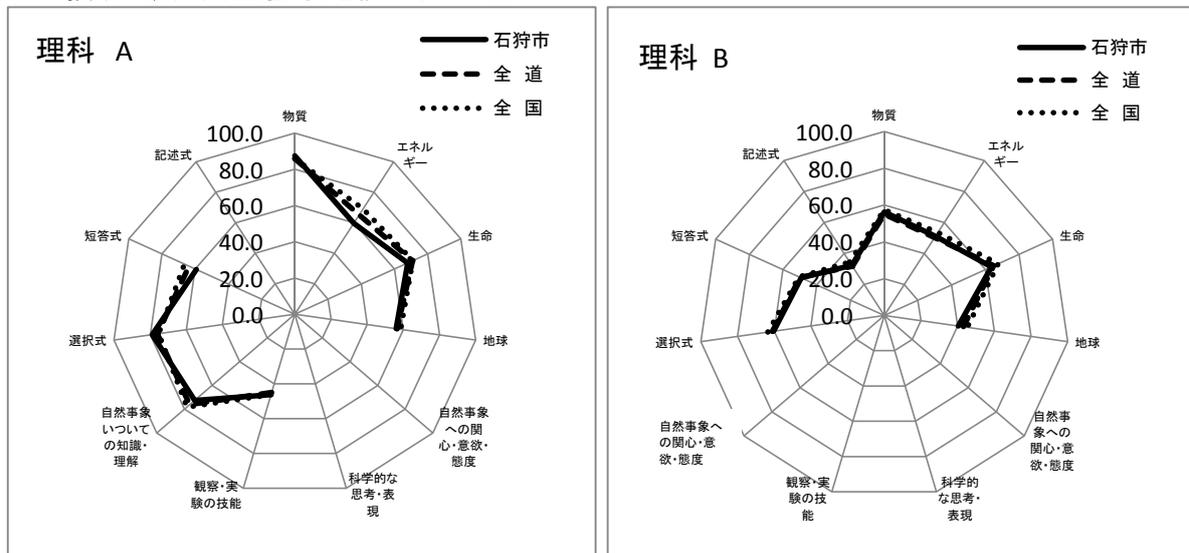
#### □ 正答率の状況 □

	理科A(主として「知識」に関する問題)		理科B(主として「活用」に関する問題)	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
全国(公立)抽出	4.8問/7問	69.1%	9.8問/17問	57.6%
全道(公立)	4.7問/7問	67.3%	9.4問/17問	55.1%

全道との比較	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様(上位)	同様	ほぼ同様(下位)	やや低い	低い	相当低い	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様(上位)	同様	ほぼ同様(下位)	やや低い	低い	相当低い
	石狩市 : ○ 全国 : ☆				☆		○							☆	○			

相当高い	… 7ポイント以上の範囲	ほぼ同様(下位)	… -1ポイント以下-3ポイント未満の範囲内
高い	… 5ポイント以上7ポイント未満の範囲内	やや低い	… -3ポイント以下-5ポイント未満の範囲内
やや高い	… 3ポイント以上5ポイント未満の範囲内	低い	… -5ポイント以下-7ポイント未満の範囲内
ほぼ同様(上位)	… 1ポイント以上3ポイント未満の範囲内	相当低い	… -7ポイント以下の範囲
同様	… ±1ポイント未満の範囲内		

#### □ 領域・観点別正答率比較グラフ □



#### □ 理科の概要 □

- 基本的な知識・技能については、全国や全道と同様の傾向が伺え、定着が見られます。
- 植物の受粉と結実のメカニズムについては、課題が見られます。
- 天気と気温の変化との関係について、データを基に分析し、その理由を記述することに課題が見られます。
- 解答時間が「あまった」や「ちょうどよかった」といった肯定的な回答、および無回答率については、全道の平均より良好な結果となっています。

## 理科 A（主として「知識」に関する問題）

以下の内容で、基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかを診る問題で構成されています。

- ・物は、形が変わっても重さは変わらないことを理解する。
  - ・光電池や乾電池の働きを強くするための要因を理解する。
  - ・虫眼鏡の適切な操作方法を身に付ける。
  - ・方位磁針の名称を理解する。
- 問題数は、7問です。

- ・「物質」の領域は、全道と比べ、ほぼ同様（上位）の傾向を示しています。

理科A		設 問	石狩市正答率	全道正答率
(例)	1 (1) 物の重さ	氷砂糖を細かく割ったときの全体の重さについて、当てはまるものを選ぶ	87.4%	85.9%

- ・「エネルギー」の領域は、全道と比べ、低い状態にあり課題があります。

理科A		設 問	石狩市正答率	全道正答率
(例) ※やや低い傾向の例	3 (1) ア 電池の強さの要因	車を動かす力を強くするための工夫について、光電池の特性や乾電池のつなぎ方から当てはまる言葉を書く	70.1%	74.7%

- ・「生命」の領域は、全道とほぼ同様（下位）の傾向を示しています。

理科A		設 問	石狩市正答率	全道正答率
(例) ※やや高い例	2 (1) 虫眼鏡の使い方	虫眼鏡の適切な操作方法を選ぶ	70.1%	66.2%
※相当低い例	2 (4) 植物の受粉と結実の概念理解	「おしべの花粉がめしべの先につく」ことを表す言葉を書く	65.9%	75.4%

- ・「地球」の領域は、全道と同様です。

理科A		設 問	石狩市正答率	全道正答率
(例) ※ほぼ同様（下位）の例	4 (1) 方位磁針の操作方法	方位磁針の適切な操作方法を選び、その時の太陽の方位を書く	22.3%	23.6%
(例) ※同様の例	4 (2) 方位磁針の名称	方位磁針の名称を書く	89.6%	89.6%

### 〈指導の改善にあたって〉

- ・ 光電池や乾電池の働きを強くする要因を理解するためには、自らの操作と実際の物の動きと関係付けた結論に結びつける指導の充実が必要です。
- ・ 植物の成長の規則性を他の植物にも適応させ、受粉から結実までの現象を一般化させる指導の強化が必要です。

## 理科 B（主として「活用」に関する問題）

以下の内容で、基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかを診る問題で構成されています。

- ・物は、水に溶けると液全体に広がることを、梅ジュースに適用する。
  - ・電磁石の強さを変える要因について確かめる実験を、条件を制御しながら構想する。
  - ・植物の受粉と結実の関係を調べる実験について、結果を基に方法を改善して、その理由を記述する。
  - ・「かげの観察記録」を基に、木の影の長さの変化を表すグラフを分析する。
- 問題数は、17問です。

- ・「物質」の領域は、全道と同様です。

(例)		理科B	設問	石狩市正答率	全道正答率
※ ほぼ同様(下位)の例	1 (4)	物の溶解	梅ジュースに溶けている砂糖の濃さについて、適切に説明しているものを選ぶ	60.2%	63.1%
※ ほぼ同様(上位)の例	3 (5) オ	水の状態変化とエネルギー	水の状態変化の説明として、当てはまる言葉を選ぶ	61.6%	60.6%

- ・「エネルギー」の領域は、全道と同様です。

(例)		理科B	設問	石狩市正答率	全道正答率
※ ほぼ同様(上位)の例	3 (2)	ゴムのねじる回数と仕事量	ゴムをねじる回数と車の進む距離の関係を示すグラフから、ゴムをねじる回数を選ぶ	57.1%	54.6%
(例) ※ 同様の例	3 (4)	電磁石の強さ	電磁石の強さを変えるための実験条件を書く	49.1%	49.9%

- ・「生命」の領域は、全道とほぼ同様(下位)の傾向を示しています。

(例)		理科B	設問	石狩市正答率	全道正答率
※ 低い例	2 (3)	サクラの開花時期	サクラが開花する地域について、データを基に、それぞれ当てはまるものを選ぶ	62.6%	67.9%
※ ほぼ同様(上位)の例	2 (5)	観察・実験の改善	スイカの受粉と結実の関係を調べる実験について、適切な実験方法を選び、選んだわけを書く	32.2%	29.9%

- ・「地球」の領域は、全道とほぼ同様(下位)の傾向を示しています。

(例)		理科B	設問	石狩市正答率	全道正答率
	4 (5)	天気と気温の関係	天気の変化と気温の変化とを関係付けて、気温の変化を表したグラフを選び、選んだわけを書く	13.8%	16.3%

### 〈指導の改善にあたって〉

- ・観察・実験の結果を多様な観点から分析し、観察や実験方法の妥当性や信頼性を吟味しながら、批判的に捉えて考察できるよう指導の工夫が必要です。
- ・学校行事などに関連させて天気の変化について興味・関心を持たせ、雲や気温などの様々な気象条件について、多面的に考察できる指導の充実が必要です。

### 教科に関する意識（質問紙の傾向）

- ・「理科の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答は、全道の82.5%に対して石狩市は86.4%で、3.9%高くなっています。
- ・「理科の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的な回答は、全道の85.5%に対して石狩市は、86.8%をで、1.3%高くなっています。
- ・「理科の授業の内容はよくわかりますか（石狩市88.0%、全道85.8%）」「授業で学習したことは将来役に立つと思いますか（石狩市72.7%、全道70.5%）」と肯定的な回答は、全道より高い傾向を示しました。

# 平成24年度 全国学力学習状況調査の結果分析

## 【中学校国語】

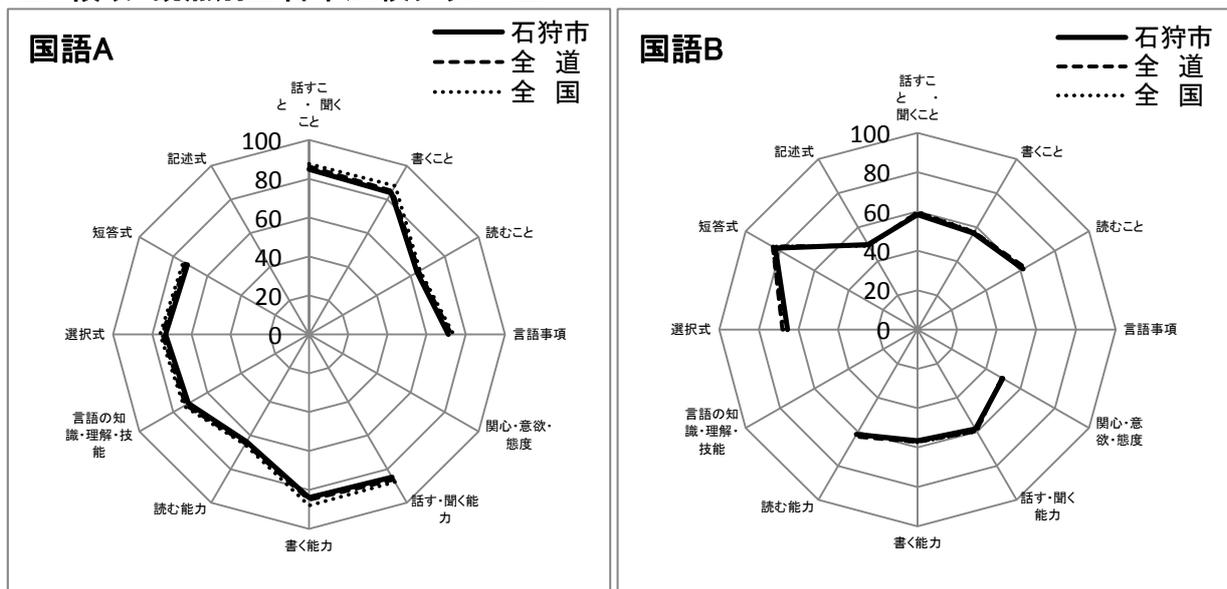
### □ 正答率の状況 □

	国語A(主として「知識」に関する問題)		国語B(主として「活用」に関する問題)	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
全国(公立)抽出	24.0問/32問	75.1%	5.7問/9問	63.3%
全道(公立)	23.7問/32問	74.0%	5.7問/9問	63.7%

全道との比較	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様(上位)	同様	ほぼ同様(下位)	やや低い	低い	相当低い	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様(上位)	同様	ほぼ同様(下位)	やや低い	低い	相当低い	
	石狩市 ; ○ 全国 ; ☆				★		○									○			

相当高い … 7ポイント以上の範囲	ほぼ同様(下位) … -1ポイント以下-3ポイント未満の範囲内
高い … 5ポイント以上7ポイント未満の範囲内	やや低い … -3ポイント以下-5ポイント未満の範囲内
やや高い … 3ポイント以上5ポイント未満の範囲内	低い … -5ポイント以下-7ポイント未満の範囲内
ほぼ同様(上位) … 1ポイント以上3ポイント未満の範囲内	相当低い … -7ポイント以下の範囲
同様 … ±1ポイント未満の範囲内	

### □ 領域・観点別正答率比較グラフ □



### □ 国語科の概要 □

- 基礎的・基本的事項の知識理解はほぼ定着しています。
- 国語Bの「読むこと」の領域は全国と同様です。
- 無解答率は全道とほぼ同様です。
- 漢字・語句等の定着、日常的な活用になお課題があります。
- 順序立てて考えたり、相手の立場に立ってわかりやすく説明することに課題があります。

## 国語 A (主として「知識」に関する問題)

基礎的・基本的な知識・技能が身につけているかどうかをみる問題で構成されています。

- ・指示された箇所として適切なものを選択する。
- ・道具について説明する一文を書き加える。
- ・指示された内容を本文中から抜き出す。
- ・漢字の音読みと訓読みの説明として適切なものを選択する。

問題数は32問です。

- ・「話すこと・聞くこと」の領域は全道と同様です。

国語A		設問	石狩市正答率	全道正答率	
(例)	4一	適切な語句を選択して話す	聞き手にわかりやすい表現に直す	90.1%	90.6%

- ・「書くこと」の領域は全道と同様です。

国語A		設問	石狩市正答率	全道正答率	
(例)	2二	相手に応じ文章を書き直す	書き足した文の説明として適切なものを選択する	82.7%	81.8%

- ・[言語事項]の中では、基本的な漢字の「書く」については全道と同様ですが、「読み」については、全道と比べて低い状態にあり、課題があります。

国語A		設問	石狩市正答率	全道正答率	
※同様の例	7一	書く	2 「タンイ」(単位)	85.4%	85.7%
※低い例	7二	読む	1 「相違」(ソウイ)	56.3%	59.8%
			3 「採る」(ト-る)	63.8%	70.9%

- ・[言語事項]の中では、日常的に使用頻度が高い語句は意味を理解し適切に使えます。また、丁寧・謙譲・尊敬等、人との関わりに必要な言葉遣いもできています。論理や文章の展開に即して内容を理解することは、全道と比べほぼ同様(下位)の傾向を示しています。

国語A		設問	石狩市正答率	全道正答率	
※同様の例	7三	意味の理解と活用	ア 部屋の雰囲気とよく調和している	84.2%	83.2%
			イ 先生が、 <u>私の家にいらっしやる</u>	90.1%	89.5%
※同様の例	7六	ローマ字	1 書く(たけくらべ)	88.5%	87.7%
※ほぼ同様(下位)の例	7七1	語句理解	「諸行むじやう」の漢字選択	64.4%	65.7%
※同様の例	7七2	仮名の変更	「あらはす」⇒「あらわす」	94.1%	93.5%

### 〈指導の改善にあたって〉

- ・学習した漢字を各教科等の学習や日常の活動等で意図的に活用するなど、定着のための機会を意図的に設定する必要があります。
- ・漢字・語句等を正確に読み書きさせるだけでなく、用法を正確に理解し文脈に即して活用することができるよう、さらに指導に努める必要があります。
- ・目的や意図、場、相手に応じて、適切にわかりやすく文章を書くことの指導に努める必要があります。
- ・日常生活の中で、自分の考えを持ち、順序立てて考えたり相手の立場に立ってわかりやすく説明することの指導に努める必要があります。

## 国語 B (主として「活用」に関する問題)

基礎的・基本的な言語活動や言語事項に関する知識・技能を活用(応用)することができるかどうかをみる問題で構成されています。

- ・どのような言葉の使い方をしたいのか具体的な言葉の例をあげて書く。
- ・相手に応じた説明書の一部を書く。
- ・朗読の仕方の工夫とその理由を書く。

問題数は9問です。

- ・「読むこと」の領域で、文章を読み大意を把握することはほぼ同様(下位)の傾向を示しています。

	国語B	設問	石狩市正答率	全道正答率	
(例)	2一	語句の把握	言い換えている言葉を抜き出す	82.7%	84.3%

- ・「書くこと」「読むこと」の領域では、「具体的な言葉の例を挙げて書く」「必要な内容を選び、伝わるように書く」などは、ほぼ同様(上位)ですが、「内容を正確に捉える」「情報を関連付けて読み、考えを適切に書く」「自分の考えを論理的に書く」ことについては、全道と比べやや低い傾向を示しており課題があります。

	国語B	設問	石狩市正答率	全道正答率	
※ほぼ同様(上位)の例	1三	考えを書く	言葉の例を挙げて書く	22.4% (全国 19.7%)	21.4%
※やや低い例	2二	工夫して書く	工夫の適切なものを選択する	76.7%	80.5%
※ほぼ同様(上位)の例	2三	伝わるよう書く	相手に合わせた説明を書く	70.2% (全国 68.4%)	68.1%
※やや低い例	3二	展開を捉える	描かれている季節を選択する	38.4% (全国 34.2%)	41.6%
※ほぼ同様(下位)の例	3三	考えを書く	朗読の工夫と理由を書く	56.7%	58.7%

※ 全国より高い正答率の設問には全国の前答率も示してあります。

### 〈指導の改善にあたって〉

- ・全体としては、全道と比べ「やや低い」状態から「同様」へと改善が見られましたが、以下の点については今後も継続して指導に努める必要があります。
- ・「読むこと」の領域では、文の大意を把握することができている。これまでの読書活動への取り組みの成果と考えられるが、今後とも継続してゆくことが大切です。
- ・自分の伝えたい内容がより効果的に伝わるよう、作成した資料を見直し、聞き手の立場に立って組み替えてみたり、相互評価したりするなど、継続して指導に努めることが大切です。
- ・発展的な問題が多い中で、複数の情報を吟味し、必要なものを選び取ることに課題が残ります。基礎的知識の充実とともに、共通点や相違点をまとめるなど情報を整理したり、順序立てた考え方や多面的な見方や考え方ができるよう、日常生活に関連付けた指導に努める必要があります。

### 教科に関する意識 (質問紙の傾向)

- ・「国語の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答は、全道の57.0%に対して石狩市は61.3%で4.3%高い結果が出ています。
- ・「国語の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的な回答は、全道の89.1%に対して石狩市は87.0%で2.1%低くなっています。
- ・「国語の授業内容はよく分かりますか」に対する肯定的な回答は、全道の68.3%に対して石狩市は66.2%と2.1%低くなっています。
- ・「読書は好きですか」に対する肯定的な回答は、全道の72.7%に対して石狩市は74.9%で2.2%高くなっています。

# 平成24年度 全国学力学習状況調査 結果分析

## 【中学校数学】

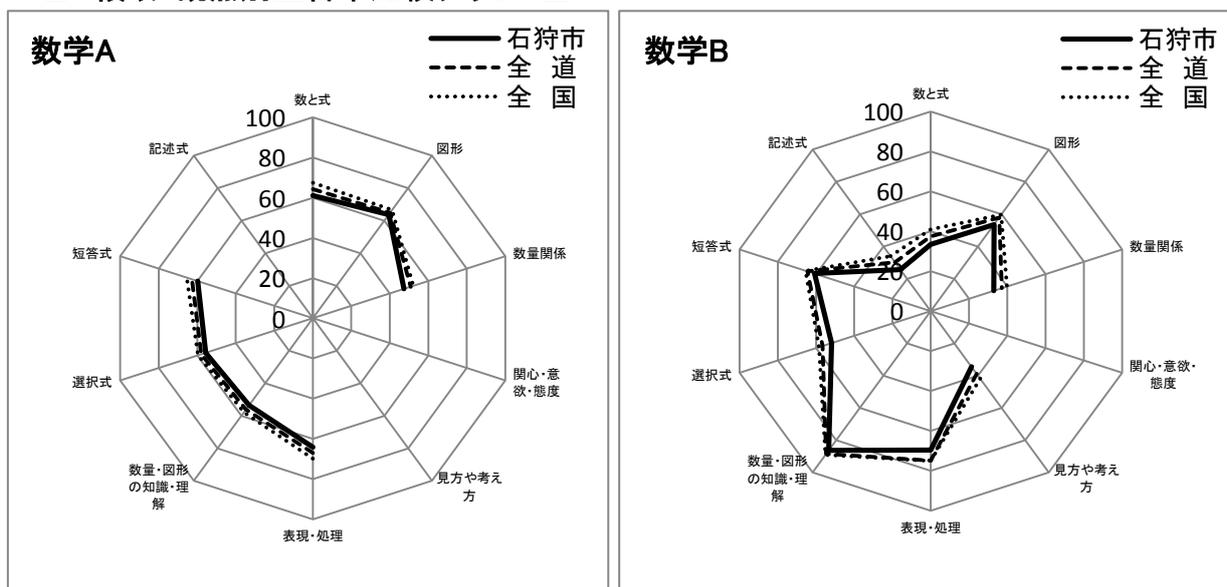
### □ 正答率の状況 □

	数学A(主として「知識」に関する問題)		数学B(主として「活用」に関する問題)	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
全国(公立)抽出	22.4問/36問	62.1%	7.4問/15問	49.3%
全道(公立)	21.6問/36問	60.0%	7.0問/15問	46.9%

全道との比較	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様(上位)	同様	ほぼ同様(下位)	やや低い	低い	相当低い	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様(上位)	同様	ほぼ同様(下位)	やや低い	低い	相当低い	
	石狩市 ; ○ 全国 ; ☆				☆		○							☆					○

相当高い … 7ポイント以上の範囲	ほぼ同様(下位) … -1ポイント以下-3ポイント未満の範囲
高い … 5ポイント以上7ポイント未満の範囲内	やや低い … -3ポイント以下-5ポイント未満の範囲内
やや高い … 3ポイント以上5ポイント未満の範囲内	低い … -5ポイント以下-7ポイント未満の範囲内
ほぼ同様(上位) … 1ポイント以上3ポイント未満の範囲	相当低い … -7ポイント以下の範囲
同様 … ±1ポイント未満の範囲内	

### □ 領域・観点別正答率比較グラフ □



### □ 数学科の概要 □

- 基礎的・基本的事項の知識理解はほぼ定着しています。
- 図形など、具体的事象の基礎・基本は全道と同様です。
- 基礎的・基本的事項の日常的な反復に課題があります。
- 基礎的知識の連携、論理的な思考に課題があります。
- 解答時間が「余った」「ちょうどよかった」の回答は全道と同様ですが、無解答率が高い傾向にあり課題があります。

## 数学 A (主として「知識」に関する問題)

数量や図形についての基礎的・基本的な知識・技能の定着度をみる問題です。  
 ・正の数・負の数や文字式とその計算。比例式、連立二元一次方程式を解く。  
 ・方程式の解が問題の答えとして適否を調べる。  
 ・平面図形の運動によって空間図形を構成する。  
 ・具体的な事象から一次関数として捉えられるものを選ぶ。  
 問題数は36問です。

- 「数と式」「図形」の領域の基本的な文字式や方程式の計算や解き方等は全道とほぼ同様です。

	数学A	設 問	石狩市正答率	全道正答率	
※ほぼ同様(下位)の例	1 (1)	最小公倍数	8と12の最小公倍数を求める	62.0%	63.7%
※同様の例	2 (3)	式の値の考察	整数aを用いて、式 $2a$ で表すことのできる数を選ぶ	33.5%	32.6%
※ほぼ同様(上位)の例	4 (2)	対称移動図形	三角形を、直線を軸として対称移動した図形をかく	81.7%	78.8%

- 「数量関係」の領域で、文字式、等式の変形、関数について数値の変化、xとyの関係を式で表す等は、全道と比べ低い状態にあり、基礎・基本事項の理解と習熟に課題があります。

	数学A	設 問	石狩市正答率	全道正答率	
※やや低い例	9 (2)	比例	$y = 2x$ 上の点を選ぶ	43.8%	48.1%
※低い例	12	反比例	反比例のグラフを選ぶ	43.4%	49.6%

- 図形など具体的事象の関係について、基礎的・基本的な知識理解は全道に比べ高い状態にあります。

	数学A	設 問	石狩市正答率	全道正答率	
※ほぼ同様(上位)の例	5 (3)	図形	三角柱の展開図として正しいものを選ぶ	94.9%	92.8%
※相当高い例	6 (1)	図形	三角定規による平行線の作図の正しい記述の選択	50.3%	41.2%

### 〈指導の改善にあたって〉

- 基礎的事項の習熟には日常的に繰り返すことが大切であり、意識的・計画的に演習するなど、反復して定着に努める必要があります。

	数学A	設 問	石狩市正答率	全道正答率	
(例)	1 (2)	数と式	$6 - (-7)$ を計算する	81.0%	83.3%
	2 (1)	数と式	$(7x+5y) - (5x+2y)$ を計算する	75.6%	78.9%

- 具体物を活用するなど、視覚的な教材を工夫し理解を深める必要があります。
- 「数量関係」領域の特に比例・反比例については、語句の意味の理解やグラフと式の関係等を復習し、演習を繰り返し定着させる必要があります。

## 数学 B（主として「活用」に関する問題）

数量や図形についての知識・技能などを実生活の場面に活用する力や、さまざまな課題解決のために構想を立てて実践し改善する能力を診る問題です。

- ・ 計算から分かることを選び、その理由を説明する。
  - ・ 記録を読み取り、それをもとに予測し、その理由を説明する。
  - ・ 図形の性質に基づいて、長さを求める方法を説明する。
  - ・ 正多角形の頂点の数と1つの外角の大きさの関係が反比例する理由を説明する。
- 問題数は15問です。

- ・ 個々の基礎的知識を連携させたり論理的・発展的に考えたりすることは、全道と比べやや低い傾向にあり課題があります。

	数学 B	設 問	石狩市正答率	全道正答率
※低い例	3 (2)	理由を数学的表現で説明	33.9%	40.3%
※やや低い例	5 (1)	情報の選択と処理	64.2%	67.2%
※やや低い例	5 (1)	情報の選択と処理	64.2%	67.2%

- ・ 無解答率が全道に比べやや高い傾向にあり課題があります。

	数学 B	設 問	石狩市		全 道	
			正答率	無解答率	正答率	無解答率
※高い例	5 (3)	図形	13.1%	54.1%	16.7%	47.9%
※やや低い例	6 (2)	数量（関数）	14.2%	37.2%	16.2%	33.7%

### 〈指導の改善にあたって〉

- ・ 基礎的知識の充実、数式等の意味・成り立ち、筋道を立てて考えることなど、課題を整理・確認し繰り返し指導・確認する必要があります。
- ・ 領域の関連性を考えて活用できるよう、繰り返し学習に取り組む必要があります。
- ・ 資料を読み取り、数理的に考察することを位置付けた学習に取り組む必要があります。
- ・ 日常生活の中から数学的な考え方が導き出せるように取り組む必要があります。
- ・ 無解答率の向上には、時間を効果的に活用し最後まであきらめずに考えるよう、日常的に指導を続けることが大切です。

### 教科に関する意識（質問紙の傾向）

- ・ 「数学の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答は、全道の52.7%に対して石狩市は48.2%で4.5%低くなっています。
- ・ 「数学の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的な回答は、全道の81.1%に対して石狩市は75.8%で5.3%低くなっています。
- ・ 「数学の授業内容はよく分かりますか」に対する肯定的な回答は、全道の64.4%に対して石狩市は58.6%と5.8%低くなっています。
- ・ 「数学ができるようになりたいと思いますか」に対する肯定的な回答は、全道の92.3%に対して石狩市は90.2%で2.1%低くなっていますが、多くの生徒が「できるようになりたい」との願望をもっていることがわかります。

# 平成24年度 全国学力学習状況調査の結果分析

## 【中学校理科】

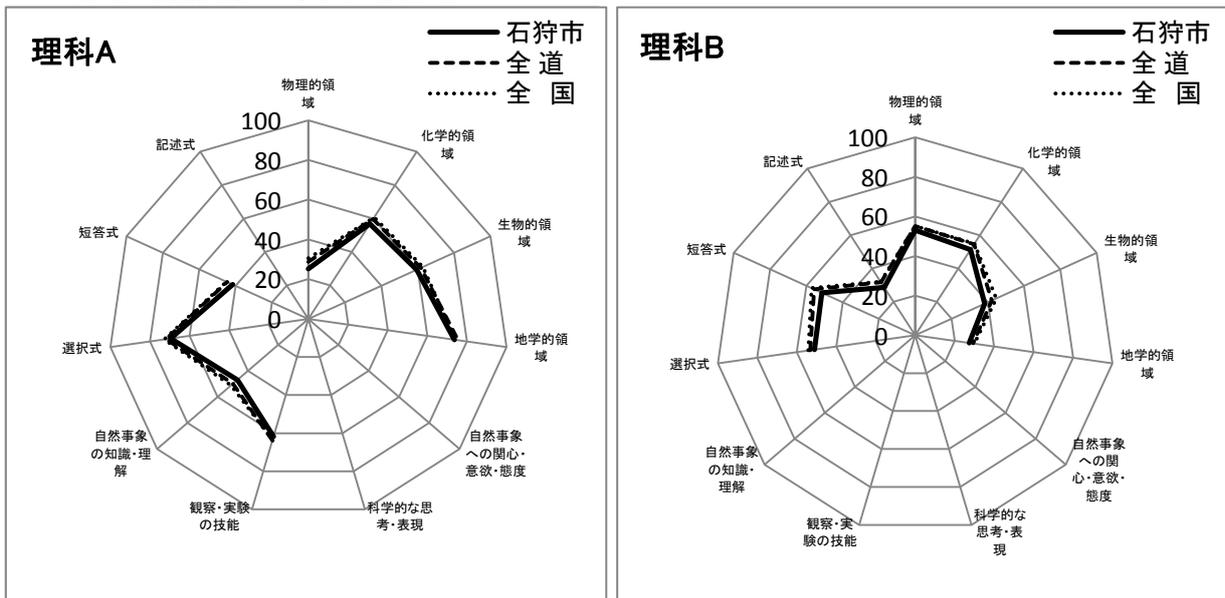
### □ 正答率の状況 □

	理科A(主として「知識」に関する問題)		理科B(主として「活用」に関する問題)	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
全国(公立)抽出	5.6問 / 10問	56.1%	7.6問 / 16問	47.8%
全道(公立)	5.6問 / 10問	55.5%	7.5問 / 16問	47.0%

全道との比較	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様(上位)	同様	ほぼ同様(下位)	やや低い	低い	相当低い	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様(上位)	同様	ほぼ同様(下位)	やや低い	低い	相当低い
	石狩市 ; ○ 全国 ; ☆					☆	○									☆	○	

相当高い … 7ポイント以上の範囲	ほぼ同様(下位) … -1ポイント以下-3ポイント未満の範囲内
高い … 5ポイント以上7ポイント未満の範囲内	やや低い … -3ポイント以下-5ポイント未満の範囲内
やや高い … 3ポイント以上5ポイント未満の範囲内	低い … -5ポイント以下-7ポイント未満の範囲内
ほぼ同様(上位) … 1ポイント以上3ポイント未満の範囲内	相当低い … -7ポイント以下の範囲
同様 … ±1ポイント未満の範囲内	

### □ 領域・観点別正答率比較グラフ □



### □ 理科の概要 □

- 基礎的・基本的事項の知識理解はほぼ定着しています。
- 情報から、論理的に考え、類推することに課題があります。
- 物理的領域、応用・発展的課題の習熟に課題があります。
- 解答時間が「余った」「ちょうどよかった」の回答は全道と同様ですが、無解答率が高い傾向にあり課題があります。

## 理科 A (主として「知識」に関する問題)

理科に関する「基礎的・基本的な知識・技能」は、単に身につけているだけでなく、観察実験など科学的に探究する学習活動や日常生活において課題を解決する場面で実際に活用できることで、一層意義が増します。そのため、出題の構成は、「知識」と「活用」には区分しないで、一体的に問うものとなっています。

ここでは、基礎的・基本的な知識と理解、観察・実験の技能の基礎を問う問題に関してまとめています。

- ・ 図から電流の大きさを読み取る。
- ・ 食塩の粒子モデルで表したのから選ぶ。
- ・ 光合成や化学変化で発生する気体の名称を答える。

問題数は10問です

- ・ 地学的領域は全道とほぼ同様（下位）の傾向を示しています。

	理科A	設問	石狩市正答率	全道正答率
※同様の例	3 (1)	地層の観察	85.7%	86.4%
※やや低い例	3 (5)	示相化石	58.1%	61.4%
※ほぼ同様（下位）の例	3 (6)	石灰岩の分類	77.0%	78.4%

- ・ 生物的領域はほぼ全道とほぼ同様（下位）の傾向を示しています。

	理科A	設問	石狩市正答率	全道正答率
※やや低い例	1 (1)	呼吸と光合成	50.3%	54.3%
※同様の例	1 (3)	胚珠と成長	68.6%	69.2%

- ・ 物理的領域・化学的領域では、全国的にも正答率は低い傾向ですが、実験観察、論理的思考や計算等を理解することには、全道と比べやや低い傾向にあり、課題があります。

	理科A	設問	石狩市正答率	全道正答率
※やや低い例	2 (1)	電流計の読み方	36.9%	42.3%
※同様の例	2 (6)	電力量の理解	10.2%	11.1%
※やや低い例	4 (3)	浮力の理解	28.2%	32.8%

### 〈指導の改善にあたって〉

- ・ 自然の事象や日常生活との関連性のある生物的領域や地学的領域についての基礎的・基本的事項は、今後もさらに充実する必要があるとあります。
- ・ 物理的領域や化学的領域では抽象的・論理的思考や数値の把握及び計算、実験観察等が必須であり、生徒が興味関心を持って取り組める教材の工夫、指導に努める必要があります。
- ・ 日常生活環境の中で、自分の考えを持ち、順序立てて考えたり相手の立場に立ってわかりやすく説明することの指導に努める必要があります。

## 理科 B (主として「活用」に関する問題)

ここでは、基礎的・基本的な知識・技能を活用して、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を問う問題や、総合的な見方や考え方を問うために、分野や項目を横断した問題に関してまとめています。

- ・実験結果から消費電力を比較して答える。
  - ・検証のための実験方法と得られる結果として正しいものを選ぶ。
  - ・観察結果から、他者の考察を検討し、適切な答えを選び、その根拠を説明する。
- 問題数は16問です。

- ・領域に関わらず、自然事象や日常生活に関連する問いの正答率は、全道同様です。

	理科B	設問	石狩市正答率	全道正答率	
※ほぼ同様(上位)の例	2 (4)	実験の計画	白熱電球とLED電球の比較実験の条件選択	77.2%	76.0%
※同様の例	3 (2)	地層と傾斜	地層のつながり方から、地層の傾斜の方向を選択	31.4%	31.2%

- ・論理的思考や類推、及び説明することは、全道と比べやや低い傾向にあり、課題があります。

	理科B	設問	石狩市正答率	全道正答率	
※同様の例	2 (2)	実験の説明	同じ結果を得るための測定方法を説明する。	7.6%	8.2%
※やや低い例	2 (3)x	消費電力の比較	豆電球と発光ダイオードの消費電力を比較し答える	47.6%	52.5%
※やや低い例	2 (5)	根拠の説明	消費電力を減らす場所の選択とその理由の説明	51.6%	56.1%

### 〈指導の改善にあたって〉

- ・実験の目的を把握し、必要な情報・条件を整理比較して説明できるよう指導に努める必要があります。
- ・発展的な問題が多い中で、複数の情報を吟味し、必要なものを選び取ることに課題があります。基礎的知識の充実とともに、共通点や相違点をまとめるなど情報を整理したり、順序立てた考え方や多面的な見方や考え方ができるよう、日常生活に関連付けた指導に努める必要があります。
- ・発展的問題の対応として、設問がどのような基礎・基本事項で構成されているかを分析し、理解させる必要があります。活用の考え方は類似問題を繰り返すことで定着させる必要があります。

### 教科に関する意識 (質問紙の傾向)

- ・「理科の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答は、全道の67.4%に対して石狩市は68.3%で0.9%高い結果が出ています。
- ・「理科の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的な回答は、全道の68.8%に対して石狩市は63.2%で5.6%低くなっています。
- ・「理科の授業内容はよく分かりますか」に対する肯定的な回答は、全道の67.3%に対して石狩市は61.8%と5.5%低くなっています。
- ・「将来理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか」に対する肯定的な回答は、全道の22.6%に対して石狩市は23.4%と同様です。
- ・「理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか」に対する肯定的な回答は、全道の37.5%に対して石狩市は38.8%でほぼ同様です。